

ヨシュア記6章「エリコの戦い」

6:1 エリコは、イスラエル人の前に、城門を堅く閉ざして、だれひとり出入りする者がなかった。6:2 【主】はヨシュアに仰せられた。「見よ。わたしはエリコとその王、および勇士たちを、あなたの手に渡した。6:3 あなたがた戦士はすべて、町のまわりを回れ。町の周囲を一度回り、六日、そのようにせよ。6:4 七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って、箱の前を歩き、七日目には、七度町を回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らさなければならない。6:5 祭司たちが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたがその角笛の音を聞いたなら、民はみな、大声でときのをあげなければならない。町の城壁がくずれ落ちたなら、民はおのおのまっすぐ上って行かななければならない。」6:6 そこで、ヌンの子ヨシュアは祭司たちを呼び寄せ、彼らに言った。「契約の箱をかつぎなさい。七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って、【主】の箱の前を行かななければならない。」6:7 ついで、彼は民に言った。「進んで行き、あの町のまわりを回らなさい。武装した者たちは、【主】の箱の前を進みなさい。」6:8 ヨシュアが民に言ったとき、七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って【主】の前を進み、角笛を吹き鳴らした。【主】の契約の箱は、そのうしろを進んだ。6:9 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの先を歩き、しんがりは箱のうしろを進んだ。彼らは進みながら、角笛を吹き鳴らした。6:10 ヨシュアは民に命じて言った。「私がときのをあげよと言って、あなたがたに叫ばせる日まで、あなたがたは叫んではいけない。あなたがたの声を聞かせてはいけない。また口からことばを出してはいけない。」6:11 こうして、彼は【主】の箱を、一度だけ町のまわりを回らせた。彼らは宿営に帰り、宿営の中で夜を過ごした。6:12 翌朝、ヨシュアは早く起き、祭司たちは【主】の箱をかついだ。6:13 七人の祭司たちが七つの雄羊の角笛を持って、【主】の箱の前を歩き、角笛を吹き鳴らした。武装した者たちは彼らの先頭に立って行き、しんがりは【主】の箱のうしろを進んだ。彼らは進みながら角笛を吹き鳴らした。6:14 彼らはその次の日にも、町を一度回って宿営に帰り、六日、そのようにした。6:15 七日目になると、朝早く夜が明けかかるころ、彼らは同じしかたで町を七度回った。この日だけは七度町を回った。6:16 その七度目に祭司たちが角笛を吹いたとき、ヨシュアは民に言った。「ときのをあげなさい。【主】がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。6:17 この町と町の中のすべてのものを、【主】のために聖絶しなさい。ただし遊女ラハブと、その家に共にいる者たちは、すべて生かしておかななければならない。あの女は私たちの送った使者たちをかくまってくれたからだ。6:18 ただ、あなたがたは、聖絶のものに手を出すな。聖絶のものにしないため、聖絶のものを取って、イスラエルの宿営を聖絶のものにし、これにわざわざいをもたらさないためである。6:19 ただし、銀、金、および青銅の器、鉄の器はすべて、【主】のために聖別されたものだから、【主】の宝物倉に持ち込まなければならない。」6:20 そこで、民はときのをあげ、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。民が角笛の音を聞いて、大声でときのをあげるや、城壁がくずれ落ちた。そこで民はひとり残らず、まっすぐ町へ上って行き、その町を攻め取った。6:21 彼らは町にあるものは、男も女も、若い者も年寄りも、また牛、羊、ろばも、すべて剣の刃で聖絶した。6:22 ヨシュアはこの地を偵察したふたりの者に言った。「あなたがたがああ遊女に誓ったとおり、あんな女の家に行って、その女とその女に属するすべての者を連れ出しなさい。」6:23 斥候になったその若者たちは、行って、ラハブとその父、母、兄弟、そのほか彼女に属するすべての者を連れ出し、また、彼女の親族をみな連れ出して、イスラエルの宿営の外にとどめておいた。6:24 彼らは町とその中のすべてのものを火で焼いた。ただ銀、金、および青銅の器、鉄の器は、【主】の宮の宝物倉に納めた。6:25 しかし、遊女ラハブとその父の家族と彼女に属するすべての者とは、ヨシュアが生かしておいたので、ラハブはイスラエルの中に住んだ。今日もそうである。これは、ヨシュアがエリコを偵察させるために遣わした使者たちを、ラハブがかくまったからである。6:26 ヨシュアは、そのとき、誓って言っ

た。「この町エリコの再建を企てる者は、【主】の前にのろわれよ。その礎を据える者は長子を失い、その門を建てる者は末の子を失う。」 6:27 【主】がヨシュアとともにおられたので、そのうわさは地にあまねく広まった。

導入

カナン占拠は三度の軍事作戦によって実現しました。中部、南部、そして北部での作戦です。中部での作戦には、エリコとアイにおける二度の戦いがありました。

一度目の戦いはエリコ侵攻で、もっとも重要な戦いでした。エリコはヨルダン川に隣接し、戦略的に有益な位置にある重要な町でした。エリコ侵攻が成功すれば、全域にその脅威を示すことができます。また、罪に立ち向かう聖なる戦いの初期において、イスラエルの民の士気を上げることもなります。

戦いの詳細を見る前に、歴史背景を押さえておきましょう。

まず、創世記15：13-16を読みましょう。

15:13 そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。15:14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。15:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。15:16 そして、四代目の者たちが、ここに帰って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることではないからである。」

16節は、カナンの地に住む人々に対する神の忍耐を示します。彼らの罪がその限度に達したとき、神はアブラハムの子孫を用いて彼らを裁かれるのです。

このことは、レビ記18：24-27にも記されています。

18:24 あなたがたは、これらのどれによっても、身を汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている国々は、これらのすべてのことによって汚れており、18:25 このように、その地も汚れており、それゆえ、わたしはその地の咎を罰するので、その地は、住民を吐き出すことになるからである。18:26 あなたがたは、わたしのおきてとわたしの定めを守らなければならない。この国に生まれた者も、あなたがたの間の在留異国人も、これらの忌みきらうべきことを、一つでも行うことがないためである。18:27 ——あなたがたより先にいたこの地の人々は、これらすべての忌みきらうべきことを行ったので、その地は汚れた——

申命記9：4-5

9:4 あなたの神、【主】が、あなたの前から彼らを追い出されたとき、あなたは心の中で、「私が正しいから、【主】が私にこの地を得させてくださったのだ」と言うてはならない。これらの国々が悪いために、【主】はあなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。9:5 あなたが彼らの地を所有することのできるの、あなたが正しいからではなく、またあなたの心がまっすぐだからでもない。それは、これらの国々が悪いために、あなたの神、【主】が、あなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。また、【主】があなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブにな

さった誓いを果たすためである。

神は、不完全なイスラエルの民を神の裁きの器として用いられるのです。

カナン侵略は、ひどい不当な仕打ちではなく、正しい神の最大の忍耐の現れです。

すべての罪は神に敵対するものであり、神は罪を罰しなければなりません。

私たちは神のご性質の両面に目を向ける必要があります。神は愛のお方です。ひとり子イエス・キリストを病めるこの世に送ってくださり、ご自身の愛を示してくださいました。それは、この世の罪の身代わりとなって罰を受けるためです。これによって、人は神の御子イエス・キリストが十字架でなされた御業を信じるなら、神の恵みによって救われることが可能となりました。神の愛を拒むなら、拒絶したことによる影響を受けることになります。

カナンの人々は、天地の創造主なるイスラエルの全能の神を受け入れませんでした。

では6章の内容を見ていきましょう。

1.神がヨシュアに語られる。(1-5節)

先週の学びで、神ご自身がイスラエルの軍の司令官であられることを学びました。ですから、エリコの攻め方について神がヨシュアに指示を出されるのは当然のことです。

しかし、神がヨシュアに与えられた指示の内容は通常のものではありませんでした。

神はヨシュアに、軍を率いて6日間町の周りを歩くようお命じになりました。

毎回、契約の箱を担いでいかなければなりません。7人の祭司が7つの雄羊の角笛を持って、箱の前を歩きます。

7日目、彼らは同じように町の周りを歩くよう命じられました。しかし、今度は7周まわって、祭司たちは角笛を吹くのです。角笛が鳴ったら、民は大声で叫ぶようにと命じられました。そうすれば、町の城壁は崩れるというのです。

もしあなたがヨシュアで、これから軍事作戦を開始しようというときに、神からこのような言葉をいただいたら、まったく意味がわかりません。けれども、ヨルダン川が分かれるのを目撃したばかりです。また路上でイエスが目の前に現れて、ご自身が神の軍の司令官だとおっしゃったのも聞きました。それなら、どんなにおかしな内容だと思っても、神の命じられたことに従う勇気が出るでしょう。

5節で神がおっしゃったことをすべて従って行えば、神の力によって城壁が崩れると心から信じなければなりません。

ヨシュアは信仰によって神のことばを信じ、神から与えられた指示をそのまま軍の人々に与えました。

2. ヨシュアが祭司たちと神の軍に指示を与える。(6-10節)

ヨシュアは祭司たちを呼び、契約の箱を担ぐよう命じました。そして、7人の祭司に、雄羊の角笛を持って箱の前を歩くよう指示しました。

武装した人たちが箱の前を歩くよう命じられました。

箱は神のご臨在の象徴であることを思い出してください。

ヨシュアは10節で、エリコの町の周りを歩くとき、声を出してはならないとすべての民に言いました。全員がずっと静かにしているのはずいぶんたいへんだったでしょう。

叫ぶべき日が来るので、それまでは静かにしているようにと言われました。神は、民に忍耐を教えておられました。語るべきときと黙るべきときがあります。(伝道者の書3:7)

イエスの生涯でもそれはありました。冒涇の罪で捕えられて告発されたときはとくにそうでした。

3. エリコ侵攻(11-16節、20-21節)

イスラエルの民は、愚かに思えるヨシュアの指示に従いました。みことばははっきりそう語ります。

民は、ヨシュアの指示にしっかり従いました。兵士たちは戦う気満々だったでしょうが、神はただ祈りをもってエリコの町の周りを歩くよう命じられました。

悪魔は常に急いでいますが、神には十分な時間があります。神はこの時、ご自身の民の中に働いておられました。神ご自身と神が与えられた指導者ヨシュアに全幅の信頼を置くように民を備えておられたのです。

4. 聖絶のものと貴金属についての指示(18-19節)

イスラエルの民は、聖絶のもの、および銀、金、青銅、鉄の取り扱いについて指示を受けました。当時、戦いの戦利品を兵士が持ち帰るのは通常の行為でしたが、ヨシュアは民に、戦利品を一切持ち帰らないようにと命じました。これは神の戦いで、神の勝利だからです。神の戦いですから、神のみが栄光をお受けになるのです。

詩篇115:1 私たちにではなく、【主】よ、私たちにではなく、あなたの恵みとまことのために、栄光を、ただあなたの御名にのみ帰してください。

イザヤ 42:8 わたしは【主】、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。

ヨシュア6:18 戦利品には手を出すな。すべて破壊しろ。もしこれに背けば、災いがイスラエル全体を襲うだろう。(リビングバイブル)

5. ラハブと家族の救い(22-23節、25節)

2章で町を偵察に来たふたりの男性は、ラハブとその家にいたすべての人を救出するよう命じられ

ます。彼らは約束を守りました。ラハブも窓に赤いひもを結びつけるという約束を守りました。

適用

1. ヨシュアへの指示 (1-5節)

ヨシュアは、人間の知恵による戦術で町を獲得しませんでした。この戦略は、神の戦略でした。

私たちも、神に解決できないほど大きな問題はないということを常に覚えておきましょう。

ヨハネ6：4-14を読みましょう。

6:4 さて、ユダヤ人の祭りである過越が間近になっていた。 6:5 イエスは目を上げて、大ぜいの人々の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」 6:6 もっとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。 6:7 ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」 6:8 弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。 6:9 「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」 6:10 イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。 6:11 そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしだけ分けられた。 6:12 そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」 6:13 彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。 6:14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。

中国宣教の先駆者ハドソン・テイラーは、主に仕える方法には3つあると言いました。

1. 自分たちの最善の計画を立てて、それが成功することを願う。
2. 自分で計画を立てて、神に祝福してくださいと祈る。
3. 神のご計画を神に尋ね求め、語られたことを行う。

クリスチャン生活で戦いに勝利したいなら、ヨシュアのように神にゆだねる必要があります。神のご計画を尋ね求め、語られたことを行いましょ。

多くのクリスチャンは、自分の計画を立てて、それを祝福してくださいと神に頼みます。

神のご計画を尋ねると、神に人生を明け渡さなければなりません。

エリコ侵攻における神のご計画は、人の考えでは愚かに思えました。しかし、それで成功しました。

神の知恵は私たちの知恵をはるかに超越しています。

イザヤ書55：8-9

55:8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——【主】の御告げ—— 55:9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

神は、人間を用いて世間では愚かと思われるご計画を喜んで遂行してくださいます。

コリント第一1：26-29

1:26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんください。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。 1:27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。 1:28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。 1:29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。

次に注目したいのは、神の指示にある7という数字です。

7人の祭司が7つの雄羊の角笛を吹きました。人々は7日目に町のまわりを7周歩きました。7という数字は、明らかにイスラエルの民の人生に刻まれています。

安息日は7日目です。過越してから7週目に五旬節があり、7年目は安息の年です。そして7年の7回目にはヨベルの年があります。

イスラエルの3つの祭事が7の月に祝われます。ラッパの祭り、贖罪の日、仮庵の祭りです。

聖書神学で数字の7は、完全、完璧を象徴します。

7と訳されたヘブル語の単語「シェバ」は、満たされる、満足するという意味のことばが語源です。

創世記2：3で、神は創造の業を終えられ、7日目に休んでその日を聖なるものとなさいました。7という数字の重要性はここから生まれました。

ユダヤ人は、神とアブラハムの契約に7つの約束があることを知っていました。（創世記12：1-3）また、幕屋の燭台には支柱と枝を合わせて7つのともしびをつけます。（出エジプト37：17-24）

ユダヤ人にとって、数字の7を含むものはすべて聖なるものでした。

神が始められたことはすべて神が完成させられることを思い起こさせてくれたのです。

これは、今日の私たちOICにどんな関係があるのでしょうか。

第一に、神は41年前にOICの働きを始めてくださいました。大阪に国際的な教会を開拓することは神のご計画でした。そして、神の助けにより、41年間存続してきました。

クリスチャンの皆さんには、ペリピ1：6のみことばが語られています。そこには、あなたのうちに神が良い働きを始めてくださったとあります。そして、イエス・キリストの日が来るまでにその働

きを完成してくださると語ります。

神との歩みをあなたがあきらめてしまっても、神はあなたのことをあきらめたりはなさいません。神はご自身の栄光のために、あなたのうちに、そしてあなたを通して働きつづけてくださいます。

今週、以前いた教会の教会員から手紙をもらい、非常に励まされました。昔、ジョシュアという8歳の少年が、教会のトイレの中でイエスを信じました。

当時、教会は新築したばかりだったので、トイレもまだきれいでした。

ジョシュアは大きくなって、教会の子供会に来なくなりました。しかし、神はジョシュアのことを忘れてはおられませんでした。今、ジョシュアはイエスに仕えるため、聖書学校に行く準備をしています。

彼のご両親はクリスチャンなので、全面的にサポートしてくれています。

神から離れてしまった人のために祈っているなら、どうかこの話が皆さんの励ましとなりますように。

2. 神の指示に従ったイスラエルの民の信仰 (6-16節)

ヘブル人への手紙の著者は、エリコ陥落の出来事を「信仰によって」起こったことの一例として11章に挙げています。(11:30)

エリコ陥落は、どんなに不可能に思える状況でも神の約束を信じて神の指示に従うよう、民を励ましたことでしょう。

私たちはヨシュアと同じことをするように召されていないくても、日常生活でさまざまな課題に遭遇します。敵や大きな壁にぶつかります。

ある注解者は語ります。「信仰の成長を遂げる唯一の方法は、新たな課題を受け入れて、神が勝利させてくださると信じることである。」

アメリカ最大の説教家と呼ばれたフィリップ・ブルックスは言いました。「楽な生活を求めてはならない。よりよい人になるために祈りなさい。」「自分の力にあった働きを求めてはならない。与えられた働きにあった力を求めなさい。」

4. ラハブと家族に示された神の恵み (22-23、25節)

21節で、イスラエルは町をことごとく滅ぼしたとあります。男も女も子どもも動物もすべてです。

ラハブとその家族だけが救われました。人間の考えでは、このようなことをなされる神はとても残虐に思えます。神はなぜひとつの家族だけを救って、他のすべての人々を滅ぼしたのでしょうか。

その答えは簡単です。ラハブだけがイスラエルの神に信仰を置いたからです。他のエリコの人々はイスラエルの神と戦おうとしました。彼らにも、イスラエルの神を信じるチャンスは平等にありま

した。しかし、信じようとしなかったのです。エリコの人々は偽りの神々を拝み、罪深い行いを繰り返しました。子どもを神へのいけにえとしてささげたり、みだらな性的行為をしたりしました。ラハブのようにこれらの罪を悔い改めることもできたのに、人々はそうしませんでした。

神がエリコを滅ぼしたのは、正当なことです。神は愛の神ですが、同時に義なる神でもあります。神は罪を罰しなければなりません。けれども神は恵みによって、神の御怒りを免れる道を備えてくださいました。神は主イエスを天から遣わし、私たちの罪の罰を負わせてくださいました。心でこのことを信じ、罪を悔い改めて、イエスを心から信じるなら、私たちがラハブのように神の御怒りから救われます。

神は完全に聖なるお方です。私たちはそうではありません。神はご自身のきよさを妥協することなく、私たちの罪を赦す方法を見つけなければなりません。そして、それを可能にする唯一の方法は、ご自身の御子イエスに私たちが受けるべき罰を負わせることだったのです。

今日、神はあなたの心に語りかけてくださったでしょうか。もしそうなら、どうか神に心を閉ざさないでください。

祈りましょう。